



拳ノ川小学校

「未来を拓く」

校長 二岡 裕幸

◆はじめに

この春には6名の新入生を迎え、全校児童22名で今年度の教育活動をスタートさせました。本校は地域との結びつきが強く、低学年のイモ、中学年のドデカボチャ、高学年では若山楮を使った紙すき体験など、生学科・総合的な学習の時間での活動に際し、地域の方にも温かく見守られながら日々健やかにすくすくと育っています。



◆めざす児童像

- ① 心やさしい子
- ② ふるさとを誇れる子
- ③ 主体的に活動する子の能力を出し切る子
- ④ 体をきたえる子
- ⑤ 和を大切にする子



◆学校教育目標

「未来を拓く」

- ① 確かな学力を備え、
- ② 豊かな心を持ち、
- ③ 体力に富み、
- ④ 主体的に活動する

チーム拳ノ川一丸とな

って「知」「徳」「体」のバランスのとれた質の高い教育の実践を通して、保護者や地域に愛され、信頼される学校づくりをめざします。

◆子どもたちの未来を拓く

① 確かな学力

本年度の研究テーマを、「主体的・協働的に学ぶ子どもを育てる」いきいきと表現する授業を通してとし、算数科を中心に研究を進めています。ICT機器の積極的な活用や、つづり方集会の実施、学習環境の整備など、少人数の良さを活かしながら学力課題の解決に向けて取組を進めています。



② 豊かな心

人権教育・道徳教育を核に、全ての教育現場でともに認めあう場の設定や肯定的評価を積極的に取り入れ、自尊感情およ

び自己肯定感の高揚を図っています。

また、学年関係なく子どもたち相互の理解を深める活動として「全校レク」や「誕生日集会」を年間を通して取り入れています。

少人数の利点を活かした異学年交流を行い、豊かな心を育んでいます。

③ 体力

毎朝のマラソンが1日のスタートです。走った周数を表に表し、可視化することで児童自身に目標を持たせ、意欲化を図りながら体力の向上をめざしています。

また、体育的要素を取り入れた全校レクを毎週実施するなど、楽しみながら体力および運動技能の向上をめざしています。

④ 主体的に活動する

地域に見守られ大切に育てられてきた子どもたち。秋の一大イベントである「収穫祭」では、収穫を祝うだけでなく、地域の方々への感謝の気持ちを伝える機会となれば、との思いで、子どもたち自身が主体となり企画・活動します。

◆おわりに

今年度は11月9日(土)に開催します。

今後とも保護者や地域の皆さんと手を組みチーム拳ノ川として、「命を尊び、故郷を愛し誇りに思う心。社会でたくましく生きる力。明るい未来を創造できる力。」の育成に向けて、取組を進めていきたいと考えています。



田ノ口小学校

「地域資源を活かした

学校をめざして」

校長 東 卓志

◆はじめに

今年度、田ノ口小学校は、2名の新入生を迎え、全校児童9名でスタートしました。学級は2学級で、1年生の単式と5年生と6年生の複式学級となっています。そのため、いろいろな活動を行うにしても全校で行うことがほとんどで、休み時間などは1年生2名が上級生の学級に行き遊ぶなど学年の隔たりなく、全員が仲良く毎日进行過しています。児童数は、年々減少傾向ではありますが、本校の良き伝統と校風を引き継ぎながら教育活動に取り組んでいます。



◆学校経営について

本校の教育目標は、「豊かな心と何事にも自らが進んで取り組もうとする児童の

育成」です。日ごろの教育活動においては、体験活動や多様な表現活動などを通じて、豊かな心や創造性を育てる教育に努めるとともに主体的に行動し、根気強く続け、元気でやさしい児童の育成をめざしています。

また、学校では、より良い学校教育を通じて社会を創るという目標を学校と社会で共有しながら教育を進めることとしており、ふるさと黒潮町を愛する児童の育成と将来にわたり地域を支えていく人材を育成することが、学校の使命であると考えます。そのためにはまず、確かな学力（知識や技能）はもちろんのこと、これに加えて学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力などを身につけた児童の育成を図ることが大切です。

◆運動会を支えてくれた、地域の方々

5月26日（日）に行われた運動会は、いかに少ない児童数で、充実した運動会を行うのかを見守る児童と保護者の

学校とで考えながら、種目などを検討しました。そうした中で、今年度は、一般種目を増やし中学生から高齢者の方々の参加を呼びかけました。そうしたかいもあり、多くの方に競技への参加をいただき、例年以上に盛り上がった運動会を実施することができました。とりわけ、今年度実施した防災クイズでは、小学生から高齢者の方々まで30名程が参加をして、難問・珍問の出題に真剣に取り組みながらも楽しく、解答を行いました。

運動会を通じて防災を学ぶ良い機会になったことと思います。



◆ふるさと教育や地域資源などを活かした教育活動

学校では、総合的な学習の時間やふるさとキャリア教育の時間などを使い、黒潮町についての学習を深めています。また、その際には、校区の方々はもちろん、町内の方々にも協力をいた

だいています。

今年で3年目となるグリーンレモンについての学習では、今まで生産者のもとを訪ね、栽培の方法や収穫の方法などを聞き取って来ましたが、今年度は、グリーンレモンが栽培されているビニールハウスを7月17日（水）に訪問してグリーンレモンの収穫作業を体験しました。収穫をするにあたっては、木にあるトゲに気をつけながら作業を行いました。この日は、梅雨明け間近ということもあり、気温はとても高い日となりましたが、グリーンレモンが栽培されているビニールハウス内は、ハウスのサイドを開けていたため一定の風が吹き抜けており、比較的作業もしやすく、たくさんのグリーンレモンを収穫することができました。また、令和4年度から本校の玄関前で栽培をしていくグリーンレモンの鉢植えには、初めて10個程度の実



が付いており、最後にいくつかの実が残って収穫できるのか、児童たちは、日々の成長具合を観察しながら収穫できる日を楽しみにしています。

◆県の森林環境税を活用した「山の学習」への取組

町面積の約79%が森林である黒潮町の現状から、昨年度より森林に関する学習にも取り組んでいます。

具体的には森林と水との関係や木材としての活用方法などについての学習が中心です。



そこで、四十町町の集成材工場の見学や中筋川ダムなどを見学してきました。今年度は、秋ごろに津賀ダムや伊与木川にある佐賀変電所についての学習を行う予定です。

このように、普段の学習では得ることのできない体験活動などを通じて、児童により知的好奇心を育てるとともに探究的な力の育成にも取り組んでいます。